

2018年度 湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

15th International Conference on Music Perception and Cognition(ICMPC15)

における

「A sound Mind in a Rhythmic Body: Severity of Cognitive Function

Correlates with Beat Production Ability in Patients with Schizophrenia」

の研究発表

慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士課程1年

本多 栞

1：活動日程・会場

日程：2018年7月23～27日

会場：カナダ モントリオール コンコルディア大学

2：活動の目的

本活動の目的は、カナダ モントリオールで開催された 15th International Conference on Music Perception and Cognition(以下、ICMPC15)において「A sound Mind in a Rhythmic Body : Severity of Cognitive Function Correlates with Beat Production Ability in Patients with Schizophrenia」というテーマでのポスター発表であった。本学会は世界の音楽研究の最先端を担う大規模な学会の1つで今回はアルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、カナダの4拠点で同時に開催された。本学会で取り扱う研究分野は幅広く、音の特徴量を物理学的に解析する音響学や、音楽教育学・音楽心理学そして音楽神経科学など音楽をキーワードとした多様な研究が一堂に集う学際的な場である。本学会で発表することは、医療分野における音楽基礎・介入研究を行う同領域の研究者とディスカッションをすることができることはもちろん、音楽研究における著名な研究者からのフィードバックを受けることができる絶好の機会であり、今後研究を前進させていく上で非常に重要であると考えた。

3：活動の成果

「A sound Mind in a Rhythmic Body : Severity of Cognitive Function Correlates with Beat Production Ability in Patients with Schizophrenia」というテーマでポスター発表を行った。統合失調症の病態生理と音楽リズムの処理における神経基盤には共通性が示唆されるものの、未だ明確な関連領域に関する報告は行われていない。本研究は、両者における神経科学的共通性

を発見し、未だ解明されていない統合失調症発症の神経機序の解明及び音楽を用いた新たな治療法の確立を目的としたプロジェクトである。今回はその中間解析として、健常者と統合失調症患者における音楽リズムの知覚・生成能力の差異及び統合失調症患者の認知機能・記憶能力と音楽リズム能力の相関関係を報告した。ポスターでは解析の結果である①統合失調症の患者は健常者と比較し、音楽リズムの知覚・生成能力が有意に低いことが認められ、②統合失調症の患者において特に言語能力/記憶能力と音楽リズム生成能力の相関が認められ、統合失調症における言語能力/記憶能力が低下しているほど音楽リズム生成能力が低いことが示唆されたことを発表した。

実際の発表の際は多くの研究者がポスターを訪れ、説明を聞いてくださった。音楽神経科学の領域に携わる研究者もいれば、音楽リズム処理の基礎的な認知科学研究を行う研究者もおり、ディスカッションの内容は多岐にわたり非常に有意義なポスター発表の時間を過ごすことができた。

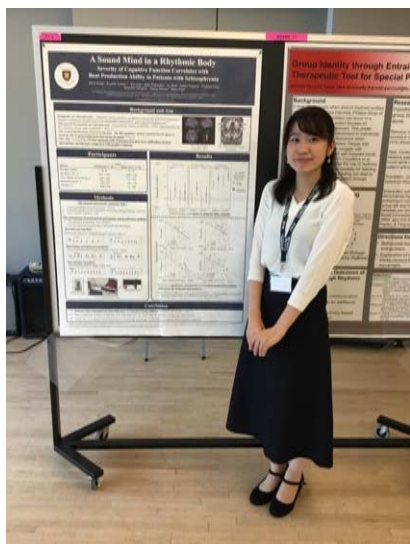


図1 学会での発表の様子



図2 学会の様子

4：今後の展望

今後は、今回行ったディスカッションやいただいたフィードバックを元にさらに研究を進めていきたいと考えている、具体的には現在70名ほどの実験を実施しているが、さらに30名ほどの実験の実施によりさらにデータのクオリティを上げていくことと、脳画像を用いた解析も行なっていきたいと考えている。

5：謝辞

本学会参加に際し、資金の援助をしてくださった湘南藤沢学会に深く御礼申し上げます。